

# 東日本大震災復興支援 ボランティア活動報告

大阪難波RC社会奉仕委員会  
委員長 神田真晃

「東日本大震災復興支援農地清掃と炊き出し、復興太鼓の演奏」の東日本大震災ボランティア活動は、平成23年7月17～18日の2日間、会員が18名（事務局員1名含）、関西大学学生が34名、一般17名の総勢71名で、ボランティアバス班、現地集合班に分かれて現地に入り、支援奉仕を行いました。

活動内容は17日は宮城県亘郡山元町ボランティアセンターの紹介で農道側溝清掃と仮設住宅支援活動を、18日は福島あづま運動公園避難所において屋外清掃・炊き出し・音楽演奏を致しました。

17日の側溝清掃活動には44名（会員3名、学生と一般38名、会員の医院の看護師3名）が従事し、山元町仮設住宅支援活動には9名（会員6名、一般3名）が、炬燵・掃除機・家財道具・米などの搬入仕分け配布に従事しました。

そして18日は総勢71名が、屋外の清掃班32名・炊き出し班23名・音楽レクリエーション班16名に別れ活動致しました。

音楽演奏では三味線奏者1名と我クラブの太鼓同好会会員7名が、被災者約100名の前で素晴らしい演奏を披露し、「幸せ太鼓」の響きが心を癒し、復興への気持ちを盛り上がらせることが出来ました。

また炊き出しでは西野会員従業員を中心にカレーうどん・皿うどん・ジャコご飯を総数500人前作り「今日のは美味しく食べられる、美味しい！」との評判を頂き、多くの方々に「大阪の人情の味」をお伝えし

ました。

清掃班では屋外清掃奉仕を致しました。

また学生が炊き出し・太鼓演奏・居住区清掃のチラシを前もって作成しボランティアセンターに郵送しており、事前に各家庭に配って頂いておりました。当日も心のこもった励ましのメッセージの寄せ書き（縦1m、横2m）を現地の避難所のおじいさんに贈呈しました。

これらの活動は各参加者の超私の奉仕の実践を通して、罹災者たちと手を取り合い、孤独死が起こっている避難者の現状から「がんばろう日本」の希望と復活の心を醸成することを願い実施致しました。

今回、我々は被災者との会話やふれあいを通して、復興太鼓と炊き出しで精神的支援を行うとともに、罹災者全体の心の痛みを和らげる癒しと明日への生きる支援活動が出来ました事を報告致します。

